

5月 事例 1 「ダンゴムシはどこにいるの？」…………… P 11  
 事例 2 「うん、こういう音楽だった（沖縄）」…………… P 12

6月 事例 3 「やればできる？ゆり組さんみたいに」…………… P 13  
 事例 4 「わかった！地下に水飲み怪獣が・・・」…………… P 14  
 事例 5 「土がぬれている時は水をまかなくてもいいの？」…………… P 15

7月 事例 6 「できた！先生、見て！」…………… P 16

9月 事例 7 「ここにはこれを置くといいよね」…………… P 17  
 事例 8 「汽車ひとりて走った！」…………… P 18

10月 事例 9 「同じもの入れたのにどうして音が違うの？」…………… P 19  
 事例 10 「おしゃれ屋さんですよ いらっしやい」…………… P 20

11月 事例 11 「どうしてもう1つの山も越えるのかな？」…………… P 21

11月3月 事例 12 「どんな花が咲くか楽しみだね」…………… P 22

12月 事例 13 「階段てさ、こうなるんだよね」…………… P 23

1月 事例 14 「氷の家？フーって吹けないな・・・」…………… P 24

2月 事例 15 「こっちの色とこっちの色は違う匂い（ヒヤシンス）」…………… P 25

3月 事例 16 「赤はあっちにあるよ、さがしてくれば」…………… P 26

ダンゴムシはどこにいるの？

ムシの特性の理解 情報収集力 自分以外の人の存在

＊年齢：4歳児 ＊場面：幼稚園園庭 ＊時期：5月中旬

事例：1

4歳児のカケルは、年長児がダンゴムシを捕まえては水槽（土や草が入っている）に入れて、触ったり観察したりしているのをうらやましそうに見ています。

担任が気付いて「年長さん、たくさん捕まえているね」と声をかけると、カケルは「うん」と答えますが、目はじっとダンゴムシに注がれています。

担任 「ダンゴムシっておもしろいね」

年長児 「触るとまるまるよ。触りたい？」

担任 「触らせてくれるって。どうする？」

カケル 「触りたい」

触らせてもらい、ダンゴムシがまるくなると水槽に戻しますが、満足した様子は見られません。

担任 「ダンゴムシ、おもしろいね。よかったね」

カケル 「うん。でも、ほくも欲しい」

担任 「どこにいるんだろうね」

年長児 「裏庭の花壇の側の石のところとか、暗いところにいるよ」

担任 「そこを探せばいいのね？探しに行く？」

カケル 「うん！ありがとう」

その後、担任にダンゴムシを入れる容器をもらって裏庭に行き、探し、1匹捕まえると担任に報告に来たり、友達に見せたり一緒に触れたりして、ダンゴムシの変化をおもしろがっていました。

欲しいと言う友達がいると、年長児が教えてくれた通りに教えていました。



気づきや経験した事柄

- ・年長児の活動への気づき
- ・新しい生き物、不思議さ（触るとまるくなる）との出会い

- ・興味の対象への執着

- ・ダンゴムシの特徴の気づき

◆教師の意図……………

- ・自分の意思で体験してほしい
- ・年長児の気遣いに気付いてほしい

- ・自分のものではない不満

◆教師の意図……………

- ・年長児への感謝
- ・自分で興味を追究してほしい

- ・新しい情報の入手

- ・興味の追究への意欲
- ・欲求の実現の喜び

- ・おもしろさの共有
- ・知っていることを教える満足感

## うん、こういう音楽だった（沖縄）

リズムと音感 経験したことの再現

\*年齢：4歳児 \*場面：幼稚園保育室 \*時期：5月下旬

## 事例：2

5月下旬、隣接する小学校との合同運動会後のある日、ユウジとタケルは4年生の児童がしていた『沖縄の踊り』をまねて、四角い空き箱（太鼓）をラップの芯（バチ）で叩いていました。

担任 「あっ、小学生の人たちがしていた踊りだね」

ユウジ 「そう。こうやってやるの」（跳ねながら叩いてみせる）

担任 「音楽があるといいね」（CDを探し、沖縄の音楽をかけてみる）

前奏を聴き、「うん、こういう音楽だった」と言って聴いていたユウジとタケルでしたが、曲が進むにつれて、「なんか違うね…」と、乗り気ではなくなりました。

翌日、小学校の先生に本番で使っていたCDを借りてきて曲を流すと、2人は箱の太鼓と芯のバチを持ち、嬉しそうに踊り始めました。



## 気づきや経験した事柄

- ・見たこと、聴いたことを記憶する力
- ・記憶したことを再現する力
- ・小学生への憧れ
- ・身近にあるものを（自分のイメージの実現のために）見立てる

◆教師の意図……………  
イメージを実現してほしい（実現させてあげたい）

- ・音楽の違いを聴き分ける力

◆教師の意図……………  
小学生への憧れを大切にしたい

- ・本物に触れる喜び
- ・リズムに乗って身体を動かす心地よさの体験

## やればできる？ ゆり組さんみたいに

経験を模倣し、表現する体験

\*年齢：4歳児 \*場面：幼稚園保育室 \*時期：6月

## 事例：3

6月の誕生会で、年長児たちの演じる『はらぺこあおむし』のペープサートを見た翌日のことです。担任に『はらぺこあおむし』の絵本を読み聞かせてもらっていると、

ユミ 「これ昨日、『ゆり組さん』がやっていたよね」

担任 「そうだね。誕生会で見せてくれたよね」

ユミ 「紙に絵を描いてさ、それを切ってお箸をつけてやればできる？ ゆり組さんみたいにさ」

担任 「そうね。ユミちゃんの好きな絵を描いたらいいね」

ユミ 「それやりたい。私、アイスクリーム描ける」

翌日、担任が画用紙や割り箸を置いておくと、数人の幼児がすぐに青虫や蝶を描き始めました。やがて、青虫が食べたものを描く段になると、「何があったかな？」と言って、棚から絵本を持ってきて、ページをめくりながら、絵本を参考に描き始めました。

絵を描き終わると、それを切り抜き、割り箸をつけて、動かしてみました。観客役の担任が拍手をすると気をよくして、「もう1回したい！」と繰り返し楽しんでいました。通りかかった年長組の担任にも「ウメ組さん素敵！ すご〜く上手だね」とほめられて、嬉しさいっぱいの様子でした。



## 気づきや経験した事柄

- ・観察力と理解力

※興味があるので、よく観察している。  
完成品から作る過程（作り方）をイメージし、理解している

◆教師の意図……………  
自分たちなりに表現する楽しさ、おもしろさを感じてほしい

- ・必要な情報を得る方法

- ・遊ぶものを自分で作る、自分で作ったもので遊ぶというおもしろさの体験
- ・表現する喜び
- ・ほめられる（評価される）ことの嬉しさ、喜び

## わかった！地下に水飲み怪獣が…

役割の交替などへの気づき 砂と水の特性の気づき

\*年齢：4歳児 \*場面：幼稚園砂場 \*時期：6月

## 事例：4

タカオはアキラと2人で砂場に穴を掘り、水を汲んで来てはその穴に入れますが、水はすぐに吸い込まれ、なくなってしまう。

タカオ「おかしいな～。何ですぐなくなるのかな？」

アキラ「わかった！地下に水飲み怪獣がいるんだよ」

タカオ「えっ、ホント？この下に水飲み怪獣がいるの？  
そうか！よし、じゃあもっと入れようよ。  
アキラくん、もっと、お水汲んできて」

アキラばかり何度も水を汲みに行く様子に気が付いた担任が2人に声をかけます。

担任「水飲み怪獣？ おもしろいことに気が付いたね。2人とも楽しそう。でも、水汲みに行くのはアキラくんだけでいいの？アキラくん、疲れていない？」

それを聞いたタカオは、（えっ？）という顔で担任とアキラの顔を交互に見て言いました。

タカオ「ごめん。今度はぼくが行くよ。アキラくん、怪獣が出てこないか、穴を見ていてね」

その後、2人は交替で水を汲みに行きました。



## 気づきや経験した事柄

- ・水と砂の不思議（特性）の体験
- ・イメージしたことの表現と受け入れ
- ・繰り返し（追究・探究）のおもしろさ

◆教師の意図……………  
水汲みは交替してやってほしい

- ・相手の気持ちや状況に気付くきっかけ作り
- ・役割の交替の必要性

- ・相手への配慮の大切さ

## 土がぬれている時は水をまかなくてもいいの？

植物の生長と水の関係 天候と水の量の理解 土の湿り具合と水の量の関係

\*年齢：4歳児 \*場面：幼稚園裏庭の畑 \*時期：6月

## 事例：5

4歳児の学級、さくら組は5月末にみんなで畑に枝豆の苗を植え、毎日水をまくことにしました。

次の日から幼児たちは、小さいジョウロにそれぞれ水を入れて畑に行き、「早く大きくなれ」と言いながら水をまいていました。幸いなことに数日間は晴天が続きました。

6月に入り、曇天の日が続くようになり、何日かは雨降りもありました。幼児には雨の日や畑の土が湿っている時は、水をまかなくてもよいということを伝えました。

ハルナは枝豆が気になるのと、毎日水をまくことが日課のようにになっているためか、前日に雨が降り畑の土がしっかり湿っていても、自分の苗に水をまきに行きます。それを見た数人が、一緒に水まきに行きました。

担任は数人なのでよいか？とっていたある日のこと、ハルナが泣きそうになりながら駆けてきました。

ハルナ「先生、あたしの枝豆倒れちゃってる」

担任「本当？一緒に見に行こう」

畑に行くとハルナのものと、周りの何本かが傾いたり倒れたりしています。根腐れを起こしたもようです。

担任「毎日、水をあげてたのにね」

ハルナ「他の人の枝豆は大丈夫なのに、どうして？」

担任は、水やりは植物が育つには大切だけれど、あげ過ぎるとよくないことや天気との関係を考えることの必要性を伝え、新しい苗と一緒に植えました。

その後は、まず畑を見に行って、土を触って湿り具合を確かめてから、水をあげるようになりました。



## 気づきや経験した事柄

◆教師の意図……………  
生長への期待と世話をすることの必要性に気付いてほしい

- ・生長への期待
- ・世話をすることの嬉しさ

◆教師の意図……………  
土の湿り具合で水をまかなくてもよいことを理解してほしい

- ・日課としてすることの安心感
- ・自分のものへの愛着

◆教師の意図……………  
根腐れしても予備があるので、気付くまで待ちたい

- ・不思議さ
- ・落胆

◆教師の意図……………  
腐ってしまったのは残念だが、体験を通して適正な水やりに関心するにはよい機会と感じている

- ・新しい知識の獲得
- ・植え直した安心感
- ・わかったことの実践

## できた! 先生、見て!

模倣による様々な方法の習得

\*年齢: 4歳児 \*場面: 幼稚園園庭 \*時期: 7月中旬

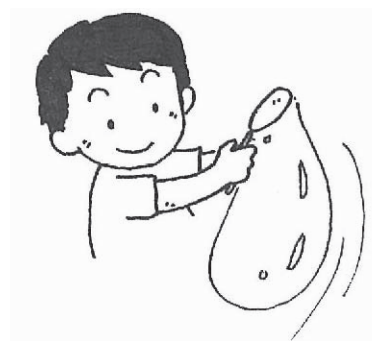
## 事例 : 6

4歳児のミノルはシャボン玉の用具が入ったカゴからシャボン玉用の輪を取り出し、シャボン液の入った皿にシャボン玉用の輪を入れて勢いよく振りまわした。しかしシャボン玉はできません。ミノルは不服そうな表情で、「もー! なんてできないんだ! ?」と言いながら、同じことを何度も繰り返していました。

ミノルのすぐ近くでは、ユウジがゆっくりと嬉しそうにシャボン玉を作って飛ばしています。担任はミノルに聞こえるように「ユウジくんのシャボン玉、大きいね〜」と呟きました。ミノルはその呟きを聞いて、ユウジの様子をじっと見つめました。

ユウジの様子をじっと見つめた後、ミノルがシャボン液からそっと輪を持ち上げて動かすと、大きなシャボン玉が出来ました。ミノルは輪から膨らむ大きなシャボン玉に目を輝かせながら、再びゆっくりと輪を動かします。そして、「できた! 先生、見て!」と声を弾ませました。

その後、ミノルは時々ユウジの様子を見ながら、大きなシャボン玉を作ることに夢中になっていました。



## 気づきや経験した事柄

- ・同じ失敗の繰り返し

◆教師の意図……………  
直接、正解を与えるのではなく、自分で成功する方法に気付いてほしい

- ・他者の方法との違いの気づき、他者から学ぼうとする姿勢（他者から学ぶ大切さ）
- ・自分の目当てを実現できる方法の習得
- ・成功（課題解決）の喜び

- ・成功の喜びが、次への発展の動機（原動力）となる

## ここにはこれを置くといいよね

型（形）の認識

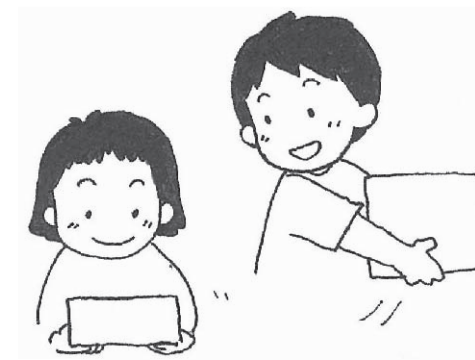
\*年齢: 4歳児 \*場面: 幼稚園保育室 \*時期: 9月上旬

## 事例 : 7

幼稚園の保育室にある中型箱積み木は、遊んだ後は、壁と床にテープで印をつけた枠の中に片付けるきまりになっています。直方体・立方体・三角柱などの積み木を、うまく片付けると枠内にピッタリと収まるようにしてあります。

毎日片付けていくうちに、子どもたちは大きな積み木は2人で持つなどして、徐々に自分たちだけで片付けられるようになっていきました。やがて、「ここにはこれを置くといいよね」「長四角を持ってきてよ」など、互いに声を掛け合って片付けていきます。

最後の1つの積み木がうまく収まらなかったときには、「これをこう動かして…」と、すでに片付けていた積み木を移動させて組み合わせを直すことまで出来るようになりました。



## 気づきや経験した事柄

◆教師の意図……………  
同じ形や大きさに気付いて、きちんと片付けてほしい

- ・協力する力
- ・型（形）を組み合わせる力
- ・積み木の特性の理解（等分・等倍）

- ・具体的操作の繰り返しによる理解
- ・自発的な工夫  
↓  
“学習の基本”として重要

# 汽車ひとりで走った!

## 斜度とスピードの関係

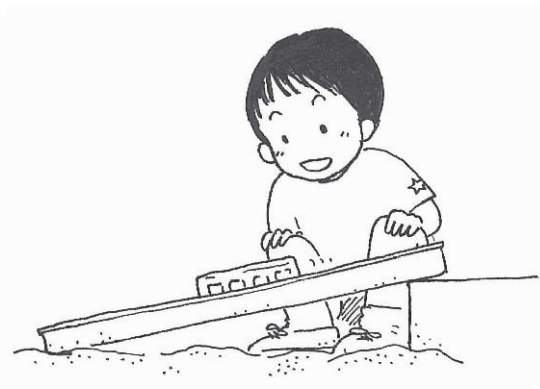
\*年齢：4歳児 \*場面：幼稚園中庭 \*時期：9月中旬

### 事例：8

4歳児のタカシは園の中庭で、「ピューン、ガタンゴトン」と戸外遊び用の電車を走らせることに夢中です。

タカシの後を追いつながら、しばらく同じように電車を動かしていたユウガは、桶を持ってくると、そばに積まれたビールケースの段差を利用して斜めになるように桶をかけました。そして走らせていた汽車を桶の中に入れて手を離してみると、汽車が桶の中を滑り出しました。ユウガは近くにいた担任の方を振り返り、「先生、汽車ひとりで走った!」と歓声をあげました。「本当に走ったね」と言うと、ユウガは嬉しそうに笑いました。

近くにいたタカシもその様子に気が付いて、自分も桶に汽車を入れて滑らせます。勢いよく滑った汽車はビールケースの中に飛び込みました。ユウガとタカシは、汽車をもっと速く走らせたくて、いろいろと桶を動かします。そして、『桶の高さ(斜度)で汽車の滑る速さが変わる』ことをおもしろがりながら、長い時間、繰り返し滑らせて遊んでいました。



### 気づきや経験した事柄

- ・結果を予測して試す
- ・期待通りの結果と、それが評価される喜び
- ・次の成果に向けた試行錯誤
- ・条件を変えて、繰り返し試すおもしろさ(新たな予測と期待)
- ・斜度と物の動きの関係の気づき

# 同じもの入れたのにどうして音が違うの?

## 材質と量の違いと結果 作ったもので遊ぶ楽しさ

\*年齢：4歳児 \*場面：幼稚園保育室 \*時期：10月

### 事例：9

先週、近くの公園に行って拾ってきたシヤクヌギなどの木の実をみんなで洗って陰干ししておきました。

それらと様々な形や大きさの空き容器、カセットデッキとテープなどを用意してコーナーを作っておきました。

チカ、セナ、チヨノが早速マラカスを作り始めました。木の実を少し入れて振るといい音がします。

チカ 「ねえ、ねえ、聴いて、ほら、いい音でしょ」

チヨノ 「あたしのもいいでしょ」

チカ 「あれ?違う音。何入れたの?」

チヨノ 「ドングリだよ、ほら」

チカ 「ほんとだ!同じもの入れたのにどうして音が違うの?」

セナ 「あたしのも違うよ」

3人で見せ合っていました。ほとんど同時に「あっ!多いのと少ないのだ!」と気づきました。

その後、3人で中に入れる量を変えたり容器を変えたりしていくつも作っては鳴らしてみています。そのうち、みんなのを合わせると音階らしく高低がついてきました。担任が音楽をかけるとそれに合わせて演奏しています。

チヨノ 「ねえ、ねえ、ずっと前に先生たちがやっていたメロディベルみたいだよ」

2人 「ほんとだ!」

セナ 「ねえ、変わりばんこしよう」

しばらくの間、3人は音楽に合わせてメロディベルのつもりになって演奏していました。



### 気づきや経験した事柄

◆教師の意図.....  
自分たちで収集したものを使って遊ぶ楽しさ、自然物と人工物の構成、調合によって変化のおもしろさ、リズムに合わせて演奏する楽しさなどを体験してほしい

- ・環境の変化の気づき
- ・試行錯誤と発見
- ・自分の作ったものへの愛着

- ・違いへの気づき

- ・同じものなのに、という疑問

- ・要因の発見

- ・見通しのある試し

◆教師の意図.....  
音楽に合わせて一層楽しくなること、友達と合わせる楽しさも感じてほしい

- ・経験からの想起

- ・気付いたことの実践、新たなおもしろさの体験

## 事例 : 10

年長児のしている遊び(お店屋さんごっこ)を見てきたミサとマミは、自分たちも「お店屋さん」を始めることにしたようです。積み木でお店(屋台)を作り、担任にクレヨンで「おしゃれや」と書いてもらった紙を看板代わりに貼り付けました。

「後で来てね」と担任を誘うと、紙やテープをお店に持ち込んでアクセサリ作りを始めました。いくつか商品ができると、今度は友だちを相手に呼び込みを始めました。

ミサ「『おしゃれ屋さん』ですよ、いらっしやい」

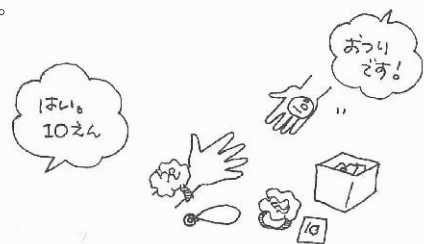
マミ「どれがいいですか?」

ミサ「はい、どうぞ。500円です」

マミ「また来てくださいね」

ミサとマミは丸や四角に切った紙に数字を書いて「お金」にしています。使う数字は、5・10・500・1000など、「1」「5」「0」です。

お客になっている幼児も「お金」を財布に入れたり、出したりしています。支払った代金よりも、お釣りが多かったりしていますが、子どもたちは言葉のやり取りを楽しんでいます。



## 気づきや経験した事柄

・経験したことの再現

・「店=看板」という認識

◆教師の意図……………  
経験した楽しさを自分たちのものとして再現してほしい

・材料を自分たちで選ぶ  
(経験を活かす)

・役としての言葉の理解と使用

・お金に使われている数字の認識

・「買い物をすればお釣りが生じる」という経験からの知識  
※数の大小(金額の多寡)にはこだわらない

## 事例 : 11

1学期に武器にして戦うだけになってしまった切り口が「B」の形のブロック(以下ブロックと記述)を一時片付けておきましたが、出すことにしました。子どもたちの登園に合わせて、教師がブロックを長くつなげたのを積み木(立方体の中型積み木2段)に立てかけ、ブロックの溝にビー玉を乗せて転がしていました。登園してきたフミヤが気づき「先生、何してるの?おもしろそう!ぼくもやりたい」と早速のってきました。そこで、自分でするようやり方を伝え、他の人にも教えるように言うておきました。すぐに5~6人が遊び始めました。

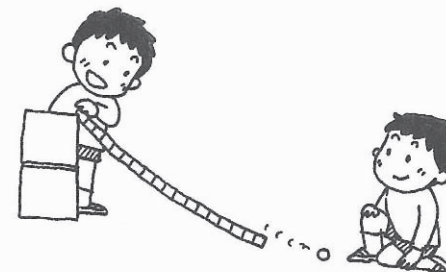
最後に取り組んだツトムはあわててつないだので、何回やっても途中からビー玉が落ちてしまいます。そこで、担任は他の子との違いに自分で気付くようなアドバイスをしました。

そのうち、長くすることに興味が向き始め、ビー玉の転がるスピードが落ちてきたので、間に積み木を1個置いてみました。

フミヤは「先生、そんなことしたらビー玉転がらない」と心配しましたが、転がすように促しました。

やってみると、低いほうの坂を乗り越えて勢いが増していきました。フミヤは「どうしてももう1つの山も越えるのかな?」と不思議そうでしたが、自分がやっても同じ結果だったので、嬉しそうに他の幼児に伝えていました。

それから数日間はこの遊びが続き、積み木を高くしたり何箇所も高低をつけたりして楽しんでいました。



## 気づきや経験した事柄

◆教師の意図……………  
同じ遊具でもいろいろな楽しみ方、遊び方があることを知ってほしい

・教師の動きのキャッチ  
・意思の決定、正確な伝達、受け止め、理解

◆教師の意図……………  
・成功しない要因に自分で気付いてほしいことと巧緻性も育ててほしい  
・遊びに変化を付けたいこととまた別のおもしろさ、不思議さに出合っしてほしい

・自分の予測と結果の違い

・不思議な現象との出会いと実験

・予測と実験、結果の確認

# どんな花が咲くか楽しみだね

自然体験（植物の生長を観察する）

＊年齢：4歳児 ＊場面：幼稚園園庭 ＊時期：11月～3月

事例：12

いろいろな花の種が入った袋から、幼児一人ひとりがひとつまみずつ種をつまんで、蒔きました。翌日から毎日水をやりながら、1日何回もプランターをのぞきます。

ナツミ「まだ咲かないかな～」

サキ「どんな花が咲くか楽しみだね」

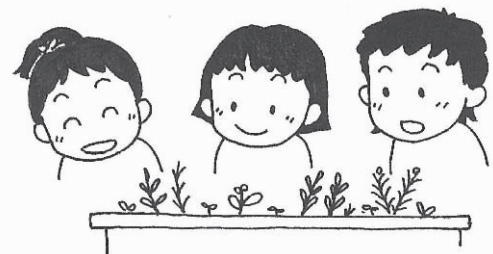
ユウナ「早く出ておいで」

1週間ほどして芽が出始めると、それを見つけたナツミは大喜びでその発見をみんなに知らせていました。やがて、芽が伸びて葉が出てくると、その形や色の違いにも気付いて、とても興味をもったようです。

ユウナ「いろんな葉っぱがあるね」

ナツミ「だっていろんな種を蒔いたもんね」

花が咲き出すと、いくつ咲いているのかを数えてみたり、同じ花でも色が違うものがあることを見つけたりしていました。次はどんな花が咲くのかをとても楽しみにしています。



気づきや経験した事柄

◆教師の意図……………  
いろいろな種子を育てることの期待と楽しみを実感してほしい

- ・植物の生長の楽しみ
- ・自分で種を蒔いた植物への愛着

- ・形や色の比較（違いの気づき）

- ・「原因と結果の関係」の理解  
※種子が違うから、咲く花も違う

- ・数を数える
- ・同種と異種での色、形の違い
- ・予想がつかない自然の姿にワクワクする気持ち
- ・自然の変化を楽しみに待つ姿勢

# 階段てさ、こうなるんだよね

空間を埋める方法の理解

＊年齢：4歳児 ＊場面：幼稚園積み木の部屋 ＊時期：12月中旬

事例：13

アカリ、カスミ、サチヨの3人が中型積み木の直方体6個を重ねた高さの屋根付きの家を作り、クリスマスでサンタクロースがやってくることにしました。3人は担任から大きな白い袋とダンボール箱を載せて固定してある台車をもらい大喜びです。サンタクロースの帽子とヒゲ、トナカイのお面もそれなりに作りました。まず、アカリがサンタクロース、カスミがトナカイ、サチヨが家で寝て待っている人になり、いよいよサンタさんがソリに乗ってやってきました。ところが屋根が高くて上がれません。相談の結果階段があればよいということになり、中型積み木を運んできて並べますが、階段になりません。

カスミが「階段てさ、こうなるんだよね」と1つ置いた次の空間に別の積み木をあてがいます。2人は「そうそう」と言いますが、カスミが手を離して置くと平らになってしまいます。そこへ担任が来て「どの高さになればいいの?」と聞くと、3人は「この高さ」と天井部分を指します。ちょうど直方体4個分の高さです。担任は「じゃあまず、家にくっつけて同じ高さに積んでごらん。そうすれば次はどの高さになればいいか分かると思うよ」と言い、その場を離れて見ていました。3人は、積み木を持ってくると重ねてみます。すると、アカリが「そうか、その次はここまでにすればいいんだ」と言い、あとの2人も「そうだ!」と納得し、積み木を積んでいきました。4段の階段が出来上がり「先生!できた!」と知らせ担任も見に来て「ほんとだ。完成おめでとう!これならサンタさん、屋根に上がれるね」と言うと、笑いながら遊び始めました。



気づきや経験した事柄

- ・積み木を立体に構成する力
- ・必要なものの理解と準備
- ・役割の存在と分担の理解
- ・階段の必要性

◆教師の意図……………  
見えない所に存在するものの必要性を理解してほしいが、遊びも楽しんでほしいので、早めにヒントを提示する

- ・実際の体験からの推察

◆教師の意図……………  
自分たちで完成できたことの承認と遊びの発展への期待

## 氷の家？フーって吹けないな…

状況の理解とそれに応じた発想 表現の楽しさ、おもしろさ

\*年齢：4歳児 \*場面：幼稚園保育室 \*時期：1月

## 事例：14

2月の月上旬に生活発表会があり、その前段階として担任はみんなで「3匹のこぶた」の劇ごっこをすることにしました。

初日は教師がオオカミになり、幼児たちは大・中・小のこぶたになり、オオカミに追いかけるのを楽しんでいました。

翌日になると、オオカミ役をやりたい子が出てきたりこぶたでなくて別の動物になりたいと申し出る子がいて、好きな役になることにしました。

リュウ、ワタル、ヤスユキが「ぼくたちはペンギンで、氷の家をつくりたい」と言い始めました。

担任 「氷の家、おもしろいね。でも、オオカミさんどうするかしらね。聞いてみる？」

3人 「ぼくたち氷の家にするけどいい？」

オオカミ役 「えっ！氷の家？フーって吹けないな…」

ワタル 「お湯で溶かしちゃうっていうのは？」

オオカミ役 「うん！それならいい！」

その後、3匹のこぶたの家に加えて、次のような提案があり、この劇遊びは「3匹のこぶた」ではなく「オオカミとどうぶつたち」という題名になりました。最後は3番目のこぶたのレンガの家に全員が逃げ込んで終わりです。

ニワトリ＝金網→ひもを引っ掛けて引き倒す

リス＝木の上→木を揺すって倒す

クマ＝洞穴→煙で燻す



## 気づきや経験した事柄

## ◆教師の意図

「劇」として教師から提示するのではなく、まず遊びとして何かの役になって動くおもしろさを感じてほしい

・自分のやりたい役の意識

## ◆教師の意図

・自分たちのやりたいことを中心に独自の話にしていきたい  
・課題は自分たちで解決してほしい

・相手の意向を聞く

・状況をイメージする

・提案と了解

・イメージを実現する楽しさの共有

・それぞれの家とそれを壊す方法との因果関係の理解

## こっちの色とこっちの色は違う匂い(ヒヤシンス)

水でも植物が育つ不思議さ 種類の違いの気づき 視覚と臭覚からの気づき

\*年齢：4歳児 \*場面：幼稚園保育室 \*時期：2月

## 事例：15

4歳児こりす組では10月にピンク、ブルー、白のヒヤシンスの水栽培をしました。担任と一緒に時々交代で水を取り替えながら根の伸びの変化に驚いたり喜んだり、また、水で栽培することに不思議さを感じたりしていました。

2月に入るとそれぞれつぼみがだいぶ伸びたので担任が窓辺の日当たりのよい台に載せておきました。ある日、登園してきたアサミが「あれ！なんだかいい匂いがする」と鼻をくくんくさせています。後からきたユメコが「アサミちゃん、何しているの？」と言い、「いい匂いがするの」「ほんとだ！」と2人で探し回ります。

アサミ 「あーこれだ！白いヒヤシンスが咲いたんだ」

ユメコ 「ほんとだ！きれい！」

アサミ 「ピンクも咲き始めたよ」

ユメコ 「ブルーもだよ」

2人 「先生、ヒヤシンスが咲いたよ！いい匂い」

担任 「本当？どこ？」

アサミ 「ね！いい匂いするでしょ」

担任 「ほんと！他の人にも教えてあげるといいね」

その後2人は、次々登園してくる友達に伝えながら「こっちの色とこっちの色は違う匂い」「あたし、ピンクの匂いの方が好き」「あたしは白かな？ブルーもいいけど」などと言いながら花の香りを楽しんでいました。



## 気づきや経験した事柄

## ◆教師の意図

幼児一人ひとりがじっくりと観察し自分なりの気づきや発見をしてほしい

・水で育つと言う教師の話の確認と不思議さと生命力の実感

## ◆教師の意図

ヒヤシンスは咲くといい香りがするので誰かに気付いてほしい

・友達の動きへの気づき

・匂いのもとを探り当てた嬉しさ、発見の喜び  
・共感

・感動を伝える

## ◆教師の意図

気付いたことを他の幼児にも伝えてほしい

・香りの違いの気づき  
・自分の好み(思い)の主張



## 赤はあっちにあるよ、さがしてくれば

自分の気持ちの調整、情報提供

\*年齢：4歳児

\*場面：幼稚園園庭

\*時期：3月

事例：16

マサヤとリュウは園庭でヒーローの基地（乗り物）を作りながら、互いに自分の作っているものを教え合っています。

マサヤ「ムゲンバインだから、ここが角で強いんだ」

リュウ「デカレッドはここが翼でさ…」

しばらくして、マサヤが、ふと顔をあげると、リュウが赤い三角ブロックを運んできて、自分の乗り物につけようとしていました。

マサヤ「それ、ぼくが使おうとしていたんだ。返して」

リュウ（怒って）「ぼくが見つけたんだよ！」

マサヤ「ぼくだってほしかったのに。これじゃ、強くなれないよ」

担任「マサヤ君。それはリュウ君のだよ。こっちにまだいろいろな色があるよ」

マサヤ「いやだ。絶対に赤がいい」

リュウ「赤はあっちにあるよ、探してくれば」

担任「マサヤ君。リュウ君が教えてくれたよ。あっちに行ってみようよ」

マサヤ「…うん。じゃあ」

担任と一緒に赤いブロックを探してきたマサヤは、それを思い描いた場所に置き、満足してリュウに声をかけます。

マサヤ「リュウくん、出発するよ。  
乗ってもいいよ」



## 気づきや経験した事柄

- ・自分のイメージを表現する

- ・自分の欲求の主張

◆教師の意図……………  
その日、その場での優先権の確保と譲歩

- ・自分の権利が保障された安ど感

◆教師の意図……………  
問題解決のための情報の提供

- ・自ら行動することで課題を解決できたという体験

- ・願いが実現した喜び  
(気持ちの安定)